

5. 考察（強度パターンの実験値の誤差原因について）

今回の実験では、単スリットやダブルスリットを用いて、スリットの幅やスリット間隔を変えた際の回折強度パターンを観測し、理論値との比較を行った。その結果、実験値と理論値の相対誤差はどれも10%以下に収まったことが確認できたが、いくつかの場合で他の場合よりも比較的に誤差が大きかった。ここでは、実験値の誤差の原因について考察する。